

優秀賞

「私を動かす2種類のエネルギー」

福島大学附属中学校

2年 松崎 志歩

私は、食べるのが大好きだ。おいしいものを食べると元気が出るし、悲しいことやつらいことがあっても『がんばろう』とすることができる。おいしいものを味わうことで言葉にならない感動が広がり、幸せな気持ちになる。『おいしくものを食べる』ことが、私のエネルギーになっている。

一言で『おいしくものを食べる』といっても、その定義はなかなか幅が広い。食べ物がおいしいのはもちろんだが、その環境によっては味がだいぶ変わってくるのである。好きな人と食べるといつも以上においしく感じるし、逆に嫌いな人と食べるのはなんだか味がしないような気がする。気候もそうである。暑いときに食べるアイスクリームは最高だが、寒いときに食べるアイスクリームは、むしろつらい。ただ、寒い中、こたつの中で食べるアイスクリームは背徳感があり、絶品である。食べる時の周囲の音も重要な要素だ。静かなところで食べると味に専念できるが、にぎやかなところで食べることはその場の雰囲気ごと食べているような気がして、違う意味で味わいが出る。このように考えると、『おいしくものを食べる』というのは無限大にあり、人によっても感じ方が異なるものだと思った。その中でも、私は、母が作ったご飯を家族みんなで楽しく食べるのが、一番おいしいと思っている。

そのような思いの中、私の趣味の一つである読書をしていた時、「人はパンのみにて生きるにあらず」という一文に出会った。世界一のベストセラー、聖書に出てくる文章であるが、気になって意味を調べたところ、「人間は、物質的に満たされているだけでなく、精神的にも満たされることを望んで生きる存在」との内容があった。最初、これはご飯に置き換えると、お米を食べるだけでも生きられるが、ずっと食べていると飽きてしまう。飽きてしまうと精神的に満たされなくなるから、おかずや調理方法を変えることで味を変えて、楽しむことができるように変化させていくことが必要であるのかと思っていた。しかし、この作文を書いている間に違う意味なのではないかと考えるようになった。『おいしい』と『精神的に満たされている』は同意義で間違いはないが、それだけの要素では足りないのではないかと思ったのである。私の中で、『おいしくものを食べる』のおいしいものの一つに、母の作ってくれるお弁当がある。食べている時も確かに幸せを感じ、エネルギーが満たされていくが、学校が終わり疲れて家に帰り、母に

「今日もお弁当、おいしかったよ」

と伝えた時の母の喜んだ表情を見た時、食べた時と同じかそれ以上にエネルギーが満たされていたことに気付いたのである。また、私もたまにご飯を作り家族に食べてもらうが、作ったご飯の出来以上にみんなが

「おいしかったよ」

と言ってくれるその言葉が、何よりもうれしいと感じるのだ。このことから、精神的に満たされているということは「おいしさ」だけでなく、他人から思いやりや感謝を受け取った時に感じるものではないかと気付いたのである。

結局のところ、『わたしのエネルギー』は二つあった。『おいしくものを食べる』と『誰かに喜んでもらうこと』だ。おいしいものを食べることで元気が出るし、悲しいことやつらいことがあっても『がんばろう』と思うことができる。誰かに喜んでもらうことで、自分の中の幸福感を満たすことができるし、また次も喜んでほしいなど、がんばることができる。この二つのエネルギーがあることで私は物質的にも満たされるし、精神的にも満たされて生きることができるのである。

私は将来、食に関わる仕事に就きたいと考えている。管理栄養士や栄養士、調理士などの作る側にもなりたいし、ホールスタッフのような直接お客様に提供する側にもなってみたいと思っている。まだ、はっきりと何になりたいかは決まっていないが、自分のエネルギーにもなり、相手にもエネルギーを届けられるような、そんな大人になりたいと思う。